

虹の架橋

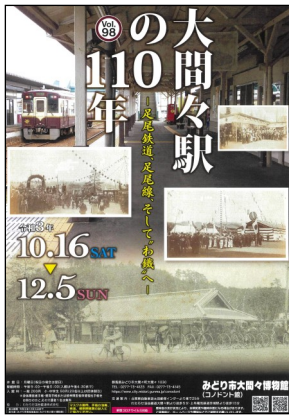
今月の題字 寺井一郎さん

(長崎県大村市)
人格を磨く「徳塾修身館」館長の寺井先生から日本人の生き方を学んでいます。「やっちゃんへ」で始まるお手紙をいただくのが楽しみです。

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。

コノドント館で企画展 大間々駅の百年

大間々駅は、明治四十四年、足尾鉄道の最初の駅として開業しました。大間々駅のプラットホームは開業当初からのもので、昭和十六年建設の駅舎と共に、国の登録有形文化財に指定されています。足尾鉄道は足尾銅山の銅を輸送するために計画され、その最初の区間として開通したのが大間々〜下新田間でした。開業日の大間々では朝から花火が打ち上げられ、駅には足尾鉄道や足尾銅山、大間々町などの関係者が集まり、盛大に開通式が行われました。



足利屋が大間々駅前「松崎足

袋店」を創業したのは、足尾鉄道開業から二年目のことでした。

この後、足尾鉄道は大正七年に国有化され、昭和二十四年からは日本国有鉄道(国鉄)の管理になり、JR時代を経て、平成元年に第3セクターのわたらせ渓谷鐵道(わ鐵)として再出発しました。以降、大間々駅は、わ鐵の中核駅として今年で開業百年を迎えました。本展では同鉄道と大間々駅が歩んできた道のりを振り返り、大間々駅が見守った町の歴史の一端をご紹介します。

今から三十数年前、「乗って残そう足尾線」を合言葉に、沿線住民が存続のための乗車運動を展開したのを覚えている人も多いと思います。大間々駅百年の節目にあたり、「日本で最も愛されている鉄道」として、今後も沿線住民が「わ鐵」を応援していきたいと思えます。



いい話 (文責・靖) 《314》

小耳にはさんだ

さいたま市の友人から『論語脳と算盤脳』という興味深い内容の本を頂きました。著者は都立駒込病院脳神経外科部長の篠浦伸禎先生。「洪沢栄一はなぜ論語(右脳)と算盤(左脳)を両立できたか」という答えを脳の働きの視点から解りやすく解説しています。

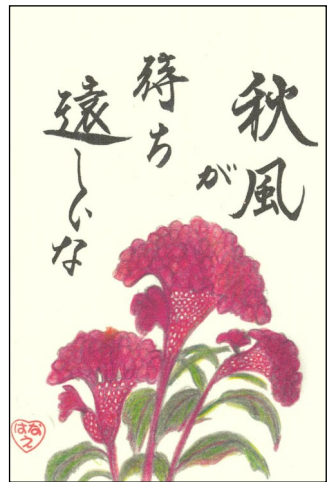
洪沢栄一は生涯で五百もの企業と六百もの公共社会事業の設立に関わり、九十一歳で亡くなるまで生涯現役で激務を全うしました。経済学者のドラッガーは「経営の本質は社会的責任であり、それを本質に実践した洪沢栄一はカーネ

論語脳と算盤脳

ギーやロックフェラーより優れていた」と激賞していたそうです。

洪沢栄一は幼い頃、論語や四書五経など数多くの本を「素読」しました。素読とは、たとえ意味がわからなくても、声を出して読み、音でそれを覚えることです。現代では、学校で素読は行われていませんが、江戸時代は、教育の中心は素読でした。素読の利点は、非常に多くの情報量を幼年期に正確に脳の中に入れることができることです。人間の脳の神経細胞は四〜五歳の頃が一番多く、神経細胞をつなぐシナプスは十歳くらいから急激に数を増やすと言われています。意味がわからなくても

世界一小さな 定利屋 トイレ美術館



今月の絵手紙 《314》
吉政英笑さん『ケイトウ』

浜松市の吉政英笑(よしまさ・はなえ)さんとは十五年以上のお付き合いになっています。毎月、虹の架橋を送ると必ず、季節感に溢れた絵手紙に添えて、虹の架橋の感想や近況が達筆な字で送られてきます。吉政さんと直接お会いする機会はありませんが、毎月手紙のやり取りを続けているお陰で再会の喜びが倍増します。「朋あり遠方より来たる、亦樂しからずや」という言葉の通り、思いを同じくする人と過ごすひと時は格別です。お便りが届くたびに吉政さんご夫妻とまたお会いしたくなります。

論語脳と算盤脳



篠浦先生は「現代人は、論語や偉人の伝記を学んで志を立てるといふ、脳科学的にもきわめて合理的な手段を失ったことが、不安やストレスの原因であると思えます」と書いています。洪沢栄一は論語(道徳)的生き方を常に上に置き、

やっちゃん日記

令和三年九月二十一日(火)
「スマホ脳」という本を読んでは、スマホやフェイスブックを見る時間を減らし、歩く時間を増やした。電子書籍もやめ、紙の本に戻した。パソコンの前で一時間座ったら十分歩く。近頃は車を使わず、車を扱う時は一番遠い駐車場に車を止め、百日間、毎日一万五千歩歩くことに決めた。今日が二十六日目。「スマホ脳」に書いてあった通り、ストレスレベルが下がり、健康レベルが上がった気がする。群馬県の健康アプリ「Go-Go-Go」の歩数計が気になり、スマホを開く回数が増えたのか、「玉にキズ」今朝も秋晴れ、六時に家を出て、高津戸橋を渡り、要害山の頂上に登った。往復四十分、朝飯前に染に五千歩を超えた。歩きすぎて股が痛くなるの心配。今日は祖父の命日で、二十三日は父の命日。自分も秋の彼岸にピンピン。コロリで笑って死ぬことが夢。戒名は「ピンピン玉にキズ居士」



徳川の寺に人なし蟬しぐれ
大間々から車で四十分ほどのところにある太田市立新田荘歴史資料館で開催中の企画展「世良田東照宮の宝物」を観てきました。(十月十日まで開催)

徳川氏祖先の寺である長楽寺は天海大僧正が住職の時代、日光東照宮の改築に伴い、多宝塔・唐門・拝殿をここに移築しました。広大な境内の中にある資料館では家康「着初めの鎧」や「東照大権現」と書かれた勅額が展示され、徳川家とこの地の関係も知ることができました。資料館も長楽寺の境内にも人影はなく、蝉の声だけが夏の終わりを惜しんでいました。

第三百十五号は令和三年十一月一日(月)発行予定です。

やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん